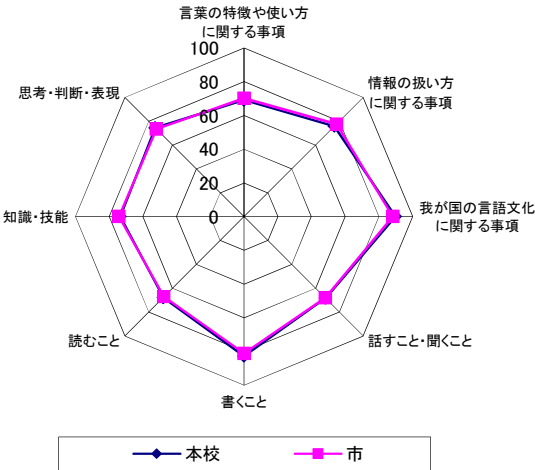


宇都宮市立横川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.2	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	75.9	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	89.8	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	68.4	68.2	67.4
	書くこと	82.7	81.1	71.7
	読むこと	67.8	67.2	61.3
観点別	知識・技能	73.4	74.2	67.9
	思考・判断・表現	74.4	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

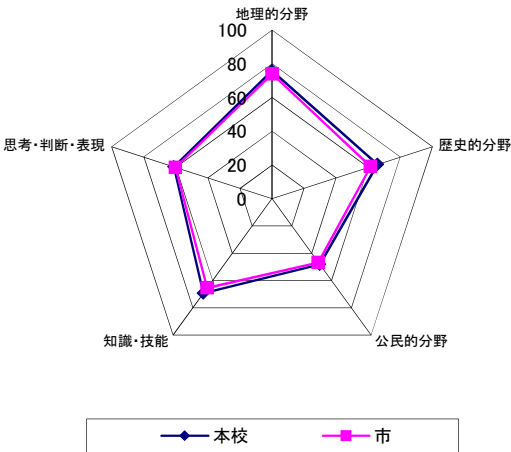
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読み書きについては正答率が高いものがあった。 ●宇都宮市の平均より1%正答率が低かった。 特に文法問題が低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 漢字の正答率が平均して高かった。継続して問題集を用いて指導を継続する。 一方で敬語の問題や、助動詞や類義語など、文法問題の正答率が低くなったため、文法の復習や各学年でのまとめを重点的に行っていく。繰り返し問題を解くなどして知識定着を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	●宇都宮市平均より1.7%正答率が低かった。情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫しているかどうか考える部分の数値が低かった。	複数の情報を視覚的に整理して必要な情報を捉えさせたり、段落の役割を考えたり、文と文、段落と段落のつながりについて捉えたりする学習を充実させ、情報同士の関係について捉える力を身に付けさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	○宇都宮市平均より1.5%正答率が高かった。 特に歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率が高かった。 ●古典の内容読解については正答率が低い部分があった。	歴史的仮名遣いの理解度は高かった。古典の中で動作主は誰なのか、助動詞の省略はないか、敬語の関係はどうなっているかなども考えながら、多くの作品に触れながら読み深めさせていく。
話すこと・聞くこと	○宇都宮市平均より0.2%正答率が高かった。 ●聞き取った内容をもとに、40字以内で記述する問題の正答率が低かった。	思考・判断・表現の中で、内容を聞き取ることはできたが、それを自分の考えとして表現することが難しいということが分かる。話題に合ったスピーチ原稿を書いたり、発表したりすることで、その能力を高めていく。
書くこと	○宇都宮市平均より1.6%正答率が高かった。特に意見文に対して自分の考えを各部分の数値が高かった。 ●情報と情報の関係をつかみ、書く部分の正答率が低かった。	自分の考えを述べることはできている。また、書くことが苦手な生徒も、諦めずに記入した様子が見られた。聞いた内容や文章を理解したうえで述べるのが得意ではない生徒が多いこともわかる。材料の中から自分の意見をまとめる機会を増やしたり、題材を工夫した作文の課題を提示したりして、書く力を伸ばしていく。
読むこと	○宇都宮市平均より0.6%正答率が高かった。特に論理や文章の展開の仕方についての問題の正答率が高かった。 ●情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える問題の正答率が低かった。	情報の関係を捉えるだけではなく、文章の読解に課題が感じられた。説明的文章では各段落の関係を捉えるため、指示語や接続語に着目させたい。文学的文章では情景描写や人物描写等に着目し、考えさせる。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	75.8	74.0	67.9
	歴史的分野	65.8	61.5	56.1
	公民的分野	48.2	46.9	40.7
観点別	知識・技能	69.3	65.5	60.6
	思考・判断・表現	61.2	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

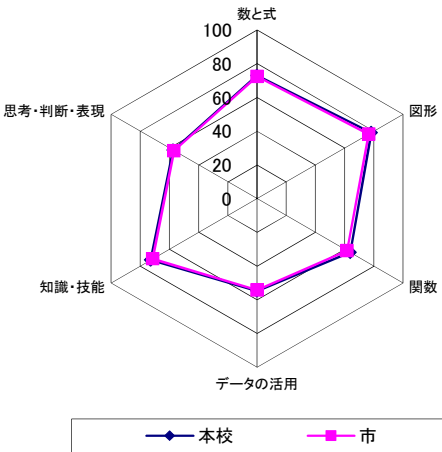
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○概ね市平均を上回っていた。特に「日本の地域的特色」については市平均を大きく上回る項目が多かった。 ●「日本の地域的特色」を図る問題で、正答率が市平均より下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的・基本的事項の理解度をさらに向上をさせるために、新たな単元でも関連する項目について既習内容を取り上げるようにしていきたい。図や映像資料なども活用していくようにする。
歴史的分野	○ほとんどの問題の解答率が、概ね市平均を上回っている。1年次の内容についても正答率が高かった。 ●「東アジアとの関わり」について、資料を活用する問題での正答率が低い問題があった。	・基礎・基本となる知識をさらに身に付けられるように、授業ごとに小テストを実施する。また資料や図の読み取りを丁寧に行うことと、説明したりする学習活動を取り入れ、資料活用 の技能が高められるようにする。
公民的分野	○市平均を上回っており、理解が図られていると考えられる。特に「人間の尊重と日本国憲法」についてはほとんどの問題で市平均を大きく上回る項目が多かった。 ●「さまざまな新しい人権が認められるようになった背景」について考察し、表現する問題で正答率が市平均より下回る項目があった。	・授業や小單元ごとに小テストを実施し、基本的内容の定着が図られるようにする。公民は普段の生活に即した内容も多いため、身近な例を挙げるなどして生徒の理解が図れるようにしていきたい。また資料や図を読み取り、説明したりする学習活動を取り入れ、思考・判断・表現力が高められるようにする。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.1	72.5	71.3
	図形	78.3	76.5	68.1
	関数	63.8	61.7	50.3
	データの活用	54.8	54.2	43.5
観点別	知識・技能	72.8	71.5	66.7
	思考・判断・表現	57.5	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

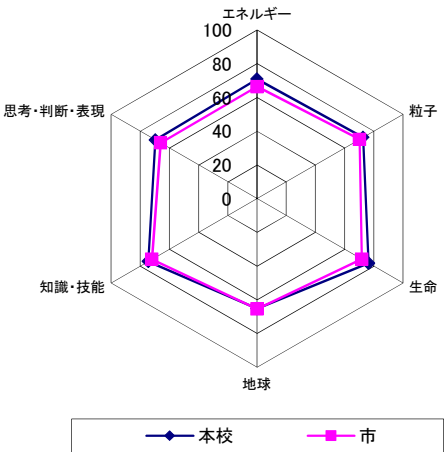
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○多項式の計算では市平均を4.2%、連立方程式の文章題では3.1%上回る結果であった。 ●負の数の減法、同類項、展開に関する基本的な問題に関して、市平均を下回る結果であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き基礎的、基本的事項の理解・技能を高めるために、新たな単元において要点を押さえた指導を心掛けていく。 ・問題集や計算プリントを必要に応じて授業で扱い、数的処理能力の育成を図る。
図形	○作図の問題では市平均を3.5%、証明の問題では5.5%上回る結果であった。 ●回転移動や対称移動に関する問題が市平均よりも低い結果であった。	・デジタル教科書やタブレット端末などのICT機器を利用した映像や図形の操作などの活動を積極的に取り入れ、視覚的に捉えた理解を深められるようにする。
関数	○ほとんどの問題が、概ね市平均を上回っており、基本的な関数の問題が身に付いている生徒が多いことがうかがえる。 ●xの2乗に比例する関数の応用的な問題では、市平均は上回っていたが、正答率が32.0%と比較的低い結果であった。	・関数の定義をしっかりと押さえながら、表・式・グラフの3つの相互関係を常に関連させた指導を図り、理解を深められるようにする。 ・応用力を高めるために、入試問題や関数と他の単元との複合問題を積極的に授業で扱う。
データの活用	○ヒストグラムに関する問題はすべてにおいて、市平均を上回る結果であった。 ●箱ひげ図に関する問題において、市平均を下回る結果である。特に、「四分位範囲を求める」、「箱ひげ図からの読み取れること」に関する問題の正答率は、全体の半数以下であった。	・授業や小单元ごとに、小テストを実施して基本的な知識の定着を図る。 ・ヒストグラムと箱ひげ図の関連性や相違点を考える活動を通して、データの分布の読み取り方の理解を高められるようにする。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	70.9	66.5	61.2
	粒子	72.6	70.2	62.3
	生命	76.4	71.8	65.7
	地球	65.2	65.4	61.0
観点別	知識・技能	74.5	72.0	67.3
	思考・判断・表現	69.7	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

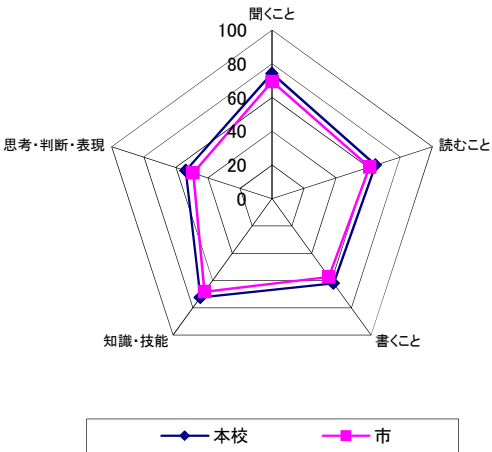
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○電流の性質についての問題では、すべての問題において市の正答率を上回っていた。 ○電力量を求める式に関する問題では、市の正答率を8.8ポイント上回っていた。 ●音の波形から音の高低や大きさを指摘する問題では、市の正答率を1.4ポイント下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・音の性質に関する問題の正答率が低かったので、実験を通して重点的に指導していく。 ・3年次に学習した内容についての正答率が他学年で学習した内容より正答率が低いので、小単元テストを行い、基本的な語句の定着を目指していく。
粒子	○「分解」について記述解答させる問題では、市の正答率を11.6ポイント上回っていた。 ○酸にアルカリを加えていったときの水酸化物イオンの数の変化を推測する問題では、市の正答率を8.8ポイント上回っていた。 ●メスシリンダーの目盛りを正しく読む問題では、全国、市の正答率のいずれも下回っていた。	・実験操作や指示薬の性質のついての正答率が低かったもので、全員が実験に参加できるようにすることで実験の技能定着を目指していく。 ・液性の変化とイオンの関係について、モデルを作成して説明するなど、どの生徒も取り組みやすい教材を活用していく。 ・小単元テストを行い、基本的な語句の定着を目指していく。
生命	○生命に関する問題では、すべての問題で市の正答率を上回っていた。 ○「遺伝」について記述解答させる問題では、市の正答率を11.9ポイント上回っていた。 ●シダ植物やコケ植物に関する問題では、市の正答率を上回っているものの、他の単元よりも差が小さかった。	・生物に関する知識は定着しているので、その知識をもとに考えを深めていく指導を行っていく。 ・シダ植物やコケ植物に関する問題の正答率を上げるために、実物の観察を行い、関心を高めていく。 ・小単元テストを行い、基本的な語句の定着を目指していく。
地球	○火山に関する問題では、すべての問題で市の正答率を上回っていた。 ●前線の通過と天気の変化に関する問題では、市の正答率を下回っていた。 ●あたたかい空気と冷たい空気の動きを推測する問題では、市の正答率を2.9ポイント下回っていた。	・温度の異なる空気の動きや前線の様子などは、生徒自身に図を描かせて説明をさせるなどの指導を取り入れ、理解を深めていく。 ・実際の天気図を授業で扱うなど、身近な現象に基づいた指導を行っていく。 ・小単元テストを行い、基本的な語句の定着を目指していく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	74.3	69.4	63.8
	読むこと	64.5	60.8	55.6
	書くこと	62.1	57.5	47.8
観点別	知識・技能	72.4	68.3	64.1
	思考・判断・表現	53.9	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○リスニング問題ではほとんどの質問において、市の正答率の平均を上回っていた。特に対話文の応答の問題では、9.0ポイント上回っていたものがあった。 ●リスニング問題のうち英文を聞き、その内容を選ぶ問題で市の平均を一問だけ0.9ポイント下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・生徒同士の対話活動や、指導者とのインタラクションを充実させることで場面・目的・状況に応じて聞いたり話したりする力を向上させる。 ・場面・目的・状況に対応して使用される有用な表現について継続して指導し、基礎基本の定着を図る。
読むこと	○長文など読み取りの問題もほとんどの質問において、市の正答率の平均を上回っていた。特にメールを読み、その内容をふまえて、英文を完成させる問題では、市の平均より11.6ポイント上回っていた。 ●読み取り問題のうち一問だけ市の正答率の平均を下回った問題があり、メールを読み、その内容から適切な語句を選んでいる	・教科書だけでなく、様々な英文の中で語形・語法や語彙の指導を行うことにより知識・理解を図る。 ・まとまりのある文章の要点を捉える活動を行う。T-FやQ&Aなどを多く取り入れていく。
書くこと	○書くことについての問題はすべて市の正答率の平均を上回っていた。特に比較の表現を含む英文を並べかえて完成させる問題では市の正答率の平均を9.4ポイント上回った。 ●Whenを使った疑問文を作ることの正答率の平均は市を上回ったものの、高いポイントとは言えない。	・疑問詞を使った疑問文は何度も繰り返して英文全体を覚えるようにする。また、様々な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分が考えたり感じたりしたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて表現する活動を行う。 ・インタラクションの中で理由や気持ち、考えなどについて表現させる活動を多く取り入れる。

宇都宮市立横川中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「めあて」「振り返り」に基づいた自主学習の実施	自主学習に取り組む際に「めあて」「振り返り」を記入させることで、何が分かり、何が分かっていないのか自分自身で確認しながら学習に取り組ませる。	「授業で習ったことをその日のうちに復習している」という設問に対する肯定的回答は、54.2%で、市の肯定的回答の割合を10.7ポイント上回っている。授業での「振り返り」をもとに、その日の学習につなげる生徒が多いことが分かる。
保護者と連携した学力テスト前の勉強計画表の作成と振り返り活動の実施	学力テスト前の学習計画表に保護者と担任の確認欄を設けることで、生徒・保護者・担任の三者で学習計画の確認を行う。また、振り返りでは、「実際の一日」と「理想の一日」のスケジュールを記入することで、学習への取り組みを可視化し、次のテストにつなげさせる。	「テストで間違えた問題は、もう一度復習している」という設問に対する肯定的回答は、87.7%で、市の肯定的回答の割合を12.5ポイント上回っている。テストの振り返りを行い、次のテストに備えている生徒が多いことが分かる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・授業での振り返りを生かした更なる家庭学習の充実
 毎時間もしくは単元ごとに各教科で、自分の学びを自覚できる振り返りを行うことにより、生徒自身に自分が何が分かり、何が分かっていないかを確認させる。それを踏まえて、不十分な学びを補うための自主学習、あるいは理解できた内容をさらに深めるための自主学習を家庭学習として取り組めるように指導していく。その際に家庭学習においても「振り返り」を欠かさず行うことで、自分の学習状況に対してメタ認知させることで、より計画的で各自の実情を踏まえた学習を行わせていきたい。